

『わたしに従いなさい』(ヨハネの福音書 21 章 15-25 節) 2021.4.25.

<はじめに> 「ガリラヤに行くように…そこでわたしに会えます」(マタイ 28:10)のとおり、弟子たちは漁をしている最中にイエスに声を掛けられ、出会います(21:1-14)。主イエスとお会いする場面は、こちらの意図した時・場面とは限りません。イエスは普通の生活の中に近づき、語り掛けられます。

I イエスの問い掛け(15-17)

①「あなたはわたしを愛していますか」

食後、イエスはペテロを連れ出して(20)語り掛けられます。なぜそうされたのでしょうか。イエスがペテロを愛しておられることが前提の問い掛けです。それを感じられる場面を見つけてください。ストレートな問い掛けですが、どのことばに強調点があると思いますか。

②3 度問われた

イエスは同じような問い掛けを 3 度繰り返されています。3 度問われたことがペテロの心を痛めたのはどうしてでしょう。3 度繰り返すことで呼び覚まされる出来事がイエスとペテロの間にあったからです。マタイ 26:31-35 とルカ 22:54-62 を読んでください。

③「愛している」の意味

日本語では同じ「愛していますか」でも、1・2 回目と 3 回目では違う語がつかわれています。アガパオーは神的愛・無償の愛、フィレオーは友愛・相互愛です。どうしてイエスは 3 度目は用語を変えて問われたのでしょうか。

II ペテロの答え(15-17)

①はっきりとは答えられない

「愛しています」とペテロは答えられませんでした。愛していないわけではありませんが、愛している者らしい歩みができていなかったことも事実です。心の思いと行いとが分離していたからです。このようなことは私たちにも起こり得ることです。

②「主よ、ご存知です」

「愛しています」ではなく「愛していることは、あなたをご存知です」とペテロは答えました。どう違うのでしょうか。ペテロが「あなたはすべてをご存知です」(17)の言葉に込めたのは、良く誇らしい自分だけでなく、失敗して恥じる自分の姿も含めたすべてです。

③主の前に進み出る

主と向き合うとき、私たちは自分の色んな面が見えて来ます。主の御顔の光のなせる業です。その光に示されたとおりに告白するとき、主はその罪を赦し、きよめてくださいます。Iヨハネ 1:7,9 を読んでください。

III 愛の発露

①わたしの羊を牧しなさい

牧するとは支配せずに放牧しながら世語をすることです。これまでのペテロは常に他の弟子たちに先んじようとしていました。主を愛するなら、主が愛された人々を支配するのではなく、それぞれを尊重しながら関わり、共に成長することができます。

②わたしに従いなさい(18-19)

良い牧者について、主はヨハネ 10 章に語られています。雇われた者は羊を置き去りにして逃げます。かつてのペテロもそうでした。しかし主は十字架を忍び、その後によりがえらえれました。その良い牧者の足跡に倣うようと、招かれます (I ペテロ 2:21-25)。

③あなたは、わたしに従いなさい(20-22)

ペテロは後ろからついて来る弟子が気になりました。でも、それは彼とは無関係です。大切なのは主との個人的な関係です。

<おわりに> かつて失敗したペテロを立て直すために、主はこの時を用いられました。同じ主が私たちにも語り掛けられます。「あなたはわたしを愛していますか」と。(H.M.)